

2、心電図検査の記録の保存期間が平成 29 年度より、6 年間から 10 年間に延長されたことは、私たち市民団体の請願や学校教職員の組合の要請を受け入れていただいたことが背景にあるのではないかと思われ、ありがたく受け止めております。しかしながら、放射能汚染による健康被害が長期にわたることを考えれば、子どもたちの健康に関する重要なデータとして、30 年以上の長期の保存が必要と考えます。

3、柏市の発表等によると、柏市内公共施設の放射線量緊急点検で目標値を越えた箇所は、163 箇所とあります。この詳細について、環境政策課に問い合わせたところ、「対応が終わっているため、公表する予定はない」との返答があり、知ることができませんでした。

「除染がされたから市民に知らせる必要はない」のではなく、緊急点検を実施された場所は、高線量が発見された箇所はもちろん、全てのデータを広く市民に知らせてください。また、今後も放射線量の測定等あった場合も同様に知らせて下さい。

4-①学校の敷地内に埋設されている汚染土は本来、東京電力あるいは国によって撤去されなくてはならないものですが、その見通しが立たない現在、安全に保管されなくてはなりません。汚染土を包んでいる遮水シートの耐用年数は「一応の目安として 15 年間」とされていますが、耐用年数の限界が来る前に、安全に保管できるような対策を講じていく必要があります。そのための検討を今から始めて下さい。

4-②平成 29 年 5 月 9 日、運動会準備中の柏市内のM小の校庭で放射線量の測定を千葉学校労働者合同組合の組合員の教員が行ったところ、運動会の入退場門の柱を立てるために掘った穴の中の数値が $1.1\mu\text{Sv}$ という驚くべきものでした。この場所にはM小の汚染土を埋めてありますが、入退場門の柱を立てるために毎年掘っているところなので、児童・教職員にとって大変危険な状態です。他の学校でも、同じような場所に埋設されているかもしれません。その場合、知らずに掘り返してしまうことも考えられます。危険防止のため、職員室や校庭に埋設場所について明示した図を早急に掲示して下さい。

4、学校の敷地内に埋設されている汚染土についての安全対策を求めます。

① 汚染土を包んでいる遮水シートの耐用年数は「一応の目安として15年間」とされていますが、耐用年数の限界が来る前に、安全に保管できるような対策を今から検討して下さい。

② 汚染土埋設場所の表示について

ア、校庭の汚染土の埋設地点を明示した図を、全職員に周知を徹底するため職員室に掲示して下さい。また、児童・保護者に注意を促せるように、昇降口など校内のわかりやすい場所に掲示して下さい。

イ、校庭の汚染土の埋設地点を明示した図を来校者に対し注意を促せるよう校庭に掲示して下さい。

(要望理由)

1-① 当会が平成28年11月に実施したアンケート調査では、まだ7割の方が柏市の甲状腺超音波検査助成制度を知らないという結果が出ました。

昨年度の市議会でも、周知をはかるという答弁を得ましたが、周知方法がまだ不完全のようです。甲状腺がんの早期発見は検査を受けることによって可能となり、重症例を防ぐことができると思われれます。対象者全員に郵送（ハガキ等）で通知して下さい。

1-② 検査受診者が年々減少しています。これは、一度受診し、異常がなかったと保護者が安心して再受診をしていないことにも原因があると考えられます。

福島県内で実施されている福島県民健康調査の最新のデータでは、1回目の検査でA1,A2判定だった子どもたちの中から、2回目の検査ではがんが見つかったケースが報告されています。このことから、甲状腺超音波検査は、定期的に継続して行っていくことがとても重要だということがわかります。

また、がんが見つかった子どもの中には、他臓器への転移など重症化しているケースもあり、早期に発見し、治療を開始することが必要です。

無用な被ばくをしてしまった子どもたちの健康を守るため、甲状腺超音波検査の結果の書類にあるA1、A2判定の今後の対応について、「再検査の不要」という文言を外し、経過観察とし、再度受診することの重要性を受診者へ伝えて下さい。

1-③ 現在柏市立病院においておこなわれている甲状腺超音波検査の助成金は3,000円で、6歳未満の幼児は1人5,200円、6歳以上の子どもは1人3,820円の自己負担金が生じます。2人、3人の子どもをもつ市民の負担は軽くありません。

福島原子力発電所の事故がなければ生じなかった負担です。本来、事故を起こした東京電力や原子力政策を推進してきた国の責任でなされるべき検査だと思いますが、柏市に住む子どもたちの健康は、柏の未来を左右するものです。北茨城市のように「復興特別交付税」で検査費用を全額負担するようにして下さい。

平成29年 9月27日

柏市市長
秋山 浩保 様

氏 名 座間 愛 (環境とエネルギー・柏の会 代表)
住 所 柏市大津ヶ丘1-27-1
電話番号 080-4463-8647

環境とエネルギー・柏の会
原発止めよう!東葛の会
郷土教育全国協議会東葛支部
千葉学校労働者合同組合

放射能汚染から市民の安全と安心を守るための要望書

柏市が放射線量の高いホットスポット地域となり、6年半が経過しました。事故を起こした原子力発電所がある福島県で実施されている「福島県民健康調査」では、検査の回を重ねるごとに、甲状腺がんの子どもが増えています。(資料1・2) その中には、他臓器への転移など重症化しているケースもあり、人々の不安はつきることはありません。〈資料3〉これは、同じく放射線の被害を受けた柏市においても他人事ではありません。また、柏市内では、柏市中央体育館をはじめ、いまだに多数のホットスポットが発見されています。

これらのことから、「放射線の問題は、長期間に及ぶ」ことが実感されます。今後も柏市の放射線対策について、後退することなく、市民の安全と安心のため、より良い制度として継続して下さい

なお、当要望書のご回答は10月31日までに文書でお願いいたします。

(要望主旨)

1、甲状腺超音波(エコー)検査のさらなる拡充を求めます

- ① 甲状腺超音波検査を柏市が助成金を出して実施していることを対象者が確実に知ることができるよう全員に郵送で通知して下さい。
- ② 柏市甲状腺超音波検査受診者に送られてくる結果の書類にある、A1、A2判定の今後の対応について、「再検査は不要」となっていますが、「経過観察を要する」として、再度受診することを勧めて下さい。
- ③ 甲状腺超音波検査費用の一部を助成するのではなく無償で実施して下さい。

2、心電図検査の記録の保存期間を30年以上として下さい。

3、今年5月末までに終了した、柏市内公共施設の放射線量緊急点検の結果を全て公表してください。また、今後も放射線量の測定など行われましたら、広く市民に情報を公表して下さい。